

第6章 経済の発展と熊本の魅力の創造・発信



経済のグローバル化に伴う競争環境の激化やAI、IoTを使ったロボットや自動運転などの技術革新に加え、人口減少・少子高齢化の進展による生産年齢人口の減少など、社会経済情勢は大きく変化しています。

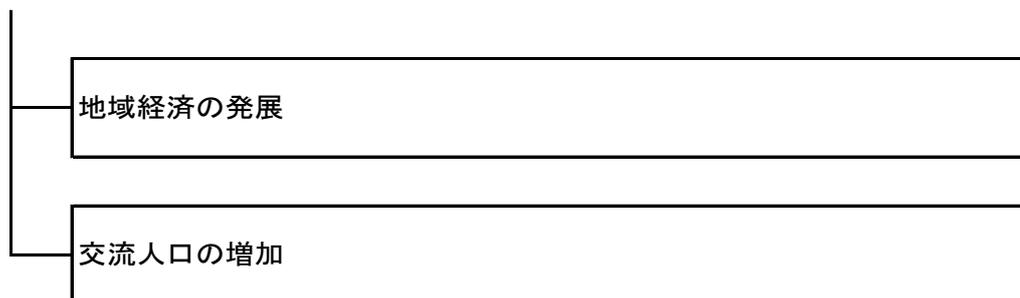
本市においては、復興需要の収束に伴う経済活動の縮小が懸念される中、地域経済を持続的に発展させていくためには、地場企業はもとより、今後成長が見込まれる産業分野の振興や、創業支援や企業誘致などによる雇用の場と人材を確保する必要があります。

また、観光業については、近年、宿泊者数が順調な伸びを示している中、桜町地区市街地再開発事業の完成や、熊本城特別公開の開始により、今後さらに増加していくことが予想されます。特に、令和元年（2019年）の国際スポーツ大会には、多くの外国人観光客が本市を訪れましたが、これを一過性のものに終わらせることのないよう、継続的な魅力の発信と、多様化する観光ニーズに対応した受入態勢の整備を行っていく必要があります。

そこで、地域経済の発展に向け、中小・小規模企業の経営基盤の強化や円滑な事業承継への支援をはじめ、医工連携などの新たな活力を生み出す産業分野の振興や企業誘致に取り組みます。加えて、潜在的な起業希望者の発掘と起業に向けた支援や、人材確保策を強化するとともに、子育て世代、高齢者、外国人など多様な人材が活躍できる環境整備を推進することで、雇用の創出と市民所得の向上を図ります。

また、交流人口の増加に向け、熊本城をはじめとする観光資源の復旧と魅力の向上を図るとともに、多様化・個性化する観光客の興味・関心を詳細に分析し、そのニーズを踏まえた受入環境の充実を図ることで、観光客の満足度向上や滞在時間の延長に繋げていきます。

政策の体系



第1節 地域経済の発展

現状と課題

熊本地震後の復興需要の収束に伴う経済活動の縮小が懸念される中、雇用情勢については、若い世代を中心とした大都市圏への人口流出や雇用のミスマッチなどにより、業種によっては依然深刻な人手不足が続いています。また、桜町地区、JR熊本駅周辺の再開発による新たな複合商業施設の開業など、人の流れや消費活動の大きな変化などが見込まれており、これらの経済活動の動向を調査・分析したうえで、地域経済の更なる発展に向けた、より実効性のある取組の推進が求められています。

そのため、若い世代や外国人留学生などの地元への定着と、U I J ターンなどの人材還流による人材確保策の強化はもとより、創業や起業支援、事業承継の推進、中小・小規模事業者の販路拡大、医療・介護・健康サービス分野の医工連携の推進など、地場企業の育成・振興に加え、新たな産業の創出にも取り組んでいく必要があります。

さらに、今後も企業誘致を積極的に推進するとともに、民間と連携した産業用地の確保に向けた検討を進めます。

基本方針

- 1 成長産業の振興
- 2 中小企業・小規模事業者への支援
- 3 商業・サービス業の活性化
- 4 企業誘致の推進
- 5 雇用の場と人材の確保

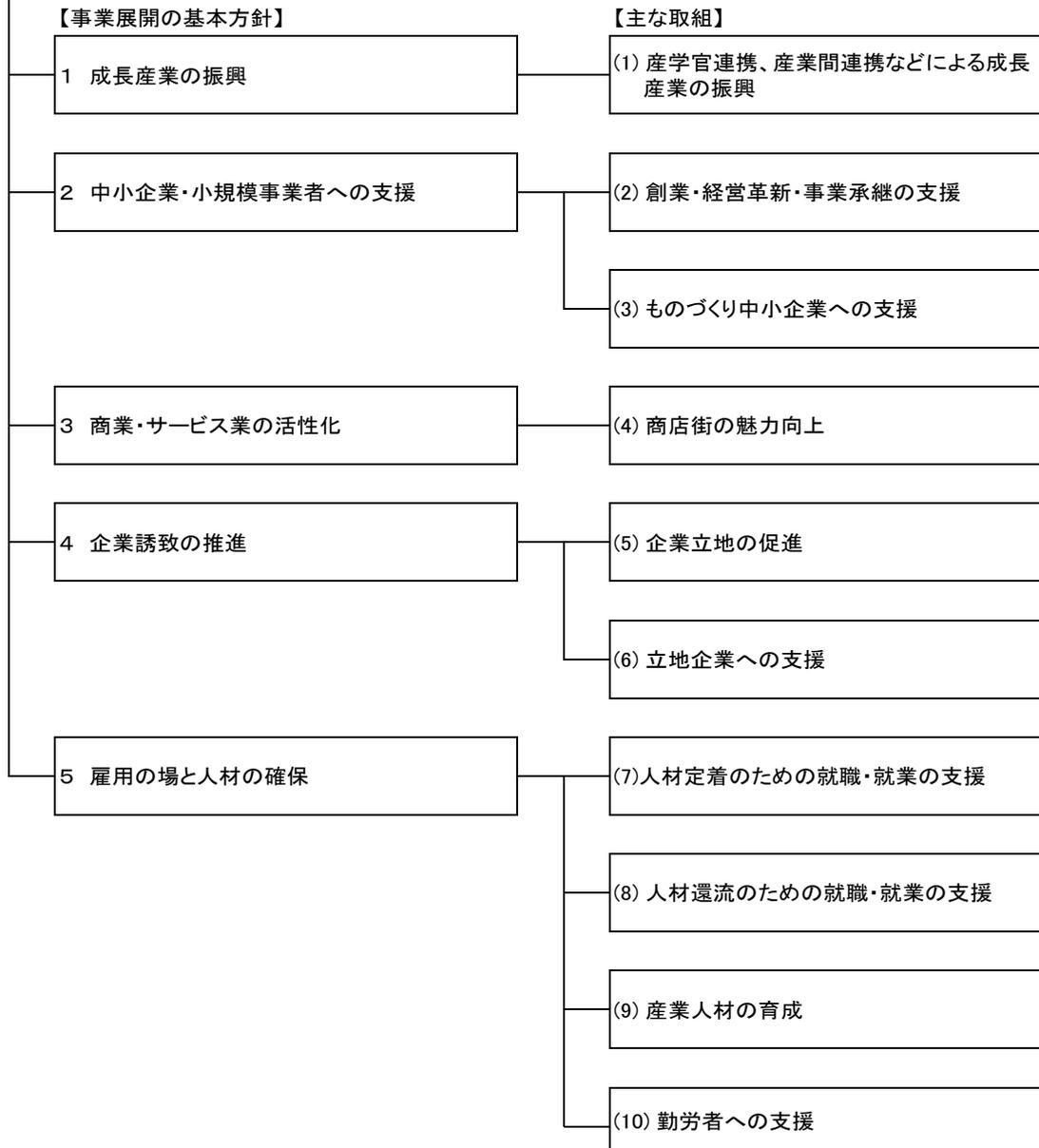
検証指標

	単位	基準値	検証値	
		H27	R1	R5
市内総生産額	十億円	2,325 (H24)	2,541	2,692

施策の体系

【施策の目標】

地域経済の発展



事業概要

【(1) 産学官連携、産業間連携などによる成長産業の振興】

ア 食品、医療・介護・健康、環境、クリエイティブの各産業で、産学官連携などによる企業の技術革新、新分野進出などを促進します。

【(2) 創業・経営革新・事業承継の支援】

ア 創業者の増加・経営安定に向けた支援やベンチャー企業の成長・発展に向けた支援のほか、事業承継支援などの強化に取り組むとともに、くまもと森都心プラザ内ビジネス支援センターの機能向上を図ります。また、商工会議所・商工会をはじめとした関係機関との連携を図ります。

【(3) ものづくり中小企業への支援】

ア インキュベータ施設を活用した創業支援や介護ロボットの開発など新製品・新技術の開発支援のほか、見本市への参加促進など、企業の販路開拓を支援します。

【(4) 商店街の魅力向上】

ア 中心商店街のにぎわい創出や、商店街の特性をいかした活性化に向けた取組を促進します。

【(5) 企業立地の促進】

ア 本市の優遇制度や立地環境などをPRし、積極的に企業誘致に取り組みます。
イ 産業用地整備に向けて候補地や事業手法などについて検討を行います。
ウ 首都圏での効果的情報発信を行うため、首都圏の熊本市関係者とのネットワークを強化します。

【(6) 立地企業への支援】

ア 立地企業のフォローアップの一環として、懇話会などを開催し、立地企業間のネットワーク形成を支援します。
イ 立地企業を対象とした合同就職面談会を開催し、立地企業の雇用確保を支援します。

【(7) 人材定着のための就職・就業の支援】

ア 若年者などの人材定着のため、大学生や小中高生が地場の企業や産業を学ぶキャリア育成支援のほか、外国人材をはじめ、多様な人材の活躍を促進するため、求人企業とのマッチングに取り組めます。

【(8) 人材還流のための就職・就業の支援】

ア 熊本市外からの人材還流を図るため、U I J ターンなどの移住就業促進に取り組めます。

【(9) 産業人材の育成】

ア 職業訓練などの実施により産業人材の育成に取り組めます。
イ 新たな技術革新に対応できる人材の育成に取り組めます。

【(10) 勤労者への支援】

ア 勤労者の福利厚生の充実を図り、安心して働ける環境づくりに取り組みます。

イ 女性や高齢者など多様な人材の活躍促進に向けて、働き方改革を推進し、多様な働き方を選択できる労働環境の整備に取り組みます。

第2節 交流人口の増加

現状と課題

本市への観光客入込数は、熊本地震により一旦減少したものの、翌年以降は国内外ともに回復傾向にあります。

このような中、本市最大の観光資源であり、復興のシンボルでもある熊本城は、令和元年（2019年）10月の特別公開第1弾を皮切りに、特別見学通路の開通や天守閣の完全復旧に伴う内部公開など、段階的に公開が進んでいきます。さらには、JR熊本駅ビルの開業や桜町・花畑周辺地区のシンボルプロムナードの整備など、今後、熊本の観光を取り巻く環境はめまぐるしく変化していくことから、これらの機会を逸することなく、的確に本市の魅力を発信していくことが重要です。

令和元年（2019年）は、国際スポーツ大会の開催に伴い、多くの外国人観光客が本市を訪れました。今後も、この動きを一過性のものに終わらせることのないよう、多様化・個性化する外国人をはじめとする観光客の興味・関心を詳細に分析し、そのニーズを踏まえた受入環境の整備を行うことにより、観光客の満足度向上や滞在時間の延長に繋げていくことが重要です。

さらに、地域の観光資源の魅力の創出・向上に努めるとともに、交流人口の増加による消費額の拡大が地域経済の活性化に大きな役割を果たすことを踏まえ、より消費効果が高いMICEの誘致や滞在型観光の促進に、官民一体となった「オール熊本」で取り組む必要があります。

基本方針

- 1 観光客誘致体制の強化
- 2 観光資源の魅力の創造と向上
- 3 MICEの推進

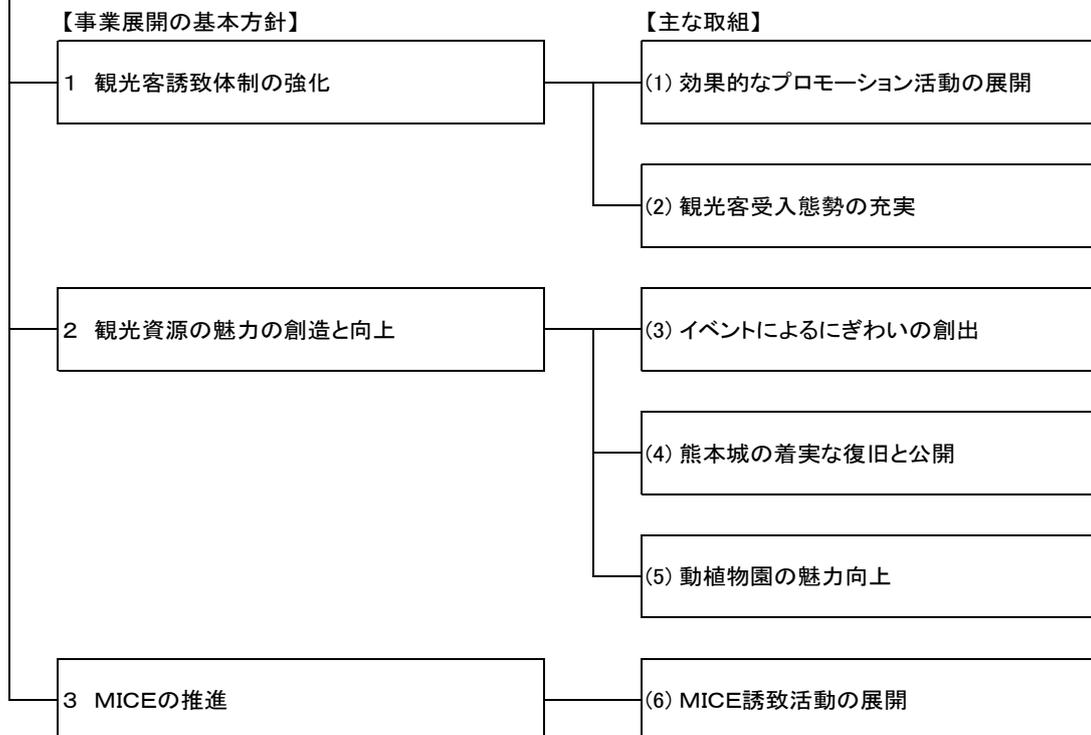
検証指標

	単位	基準値	検証値	
		H27	R1	R5
観光消費額(暦年)	億円	673 (H26)	749	852

施策の体系

【施策の目標】

交流人口の増加



事業概要

【(1) 効果的なプロモーション活動の展開】

ア 本市の強みである歴史・文化や清らかな地下水に恵まれた食の魅力などを結びつけ一体的なストーリーを構築するなど、多様なニーズに対応した観光資源の磨き上げを進めるとともに、公式ウェブサイトやSNS、映像コンテンツなどを活用して国内外への情報の発信を図ります。

イ アジア、欧米、国内など、国・地域ごとに観光客の関心分野を調査・分析するとともに、その結果を基に観光マーケティング戦略を策定し、それぞれの特性やニーズに応じた戦略的な観光施策の展開を図ります。

ウ 県や熊本連携中枢都市圏の市町村、さらには九州内の各都市と連携し、効果的な誘致活動を行います。

【(2) 観光客受入態勢の充実】

ア 外国人観光客の満足度向上と滞在時間延長による観光消費額の増加に向け、日本文化や自然を体験するコンテンツを充実させます。

イ 観光案内所の充実や、多言語対応、トイレの洋式化、キャッシュレス化、無料 W i - F i 環境、交通アクセスの円滑化など、観光客の受入環境の整備に取り組みます。

ウ 熊本城と水前寺成趣園を「国際観光重点地域」に指定し、わかりやすい多言語表記の導入など、外国人も含めた観光客の利便性向上を図ります。

【(3) イベントによるにぎわいの創出】

ア 中心市街地や水前寺江津湖一帯の魅力向上のため、花火大会などのイベントの開催を通じたにぎわいの創出を図ります。

【(4) 熊本城の着実な復旧と公開】

ア 熊本城においては、「熊本城復旧基本計画」に基づき、効率的・計画的な復旧を着実に進めるとともに、復旧過程の戦略的な公開・活用に取り組み、観光資源としての早期再生を図ります。

【(5) 動植物園の魅力向上】

ア 動植物園においては、「動植物園マスタープラン」に基づき、「愛され続ける水辺の動植物園へ」をコンセプトに、隣接する江津湖の特性をいかしながら、来園者に優しく、魅力ある空間づくりに重点的に取り組みます。

【(6) M I C E 誘致活動の展開】

ア 「熊本市 M I C E 誘致戦略」に基づき、本市の特性をいかした分野など誘致のターゲットを明確化するとともに、M I C E 関連事業者間のネットワークを強化し、オール熊本による誘致活動や受入環境を整備します。

イ 県や関係団体と連携し、国際・全国的なスポーツ大会やキャンプの誘致などに取り組みます。